



世界につながる教室⑭

授業でSDGsを学ぶ

宮崎市立清武中学校 総合的な学習の時間

学校の授業で取り上げる機会が増えている持続可能な開発目標(SDGs)*。宮崎市立清武中学校では、総合的な学習の時間にJICAと協力して授業を実施。生徒たちはSDGsへの理解を深めた。

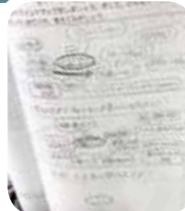
1・2
時間目

SDGsについて知る



フィリピンでの体験を話す太田さん。

ゲストティーチャーとしてJICAの田代さんが、ユニセフや国連広報センター、JICAの資料や動画を活用してSDGsについて紹介。その後生徒は、SDGsの17の目標から一つ選び、マインドマップを使って疑問点や課題を出す。



目標から連想される事柄を書いていくマインドマップ。

清武中学校 3年生 SDGsをテーマにした 総合的な学習の時間

2020年の秋に実施された
10時間の授業の流れを紹介しよう。

3~5
時間目

目標を達成する方法を調べる



同じ目標について調べる生徒同士でグループをつくり、教員の指導のもとに資料やインターネットで必要な情報を収集する。

用意されたシートに沿って、調べたことをまとめる。

6~8
時間目

調べたことをまとめる

調べた内容をもとに自分ができることを考え、A4の紙1枚に自由な形式でまとめる。作成にあたっては、読んでもらう相手を意識させる。

9
時間目

まとめたレポートを評価する

作成したレポートをグループ内で回し読みし、コメントを書いた付箋を貼って渡す。これまでの学習を各自で振り返り、教員が作成した自己評価表に記入する。



グループで講評し合い、感想を付箋で貼る。

10
時間目

代表の発表・講話・まとめ



最後の授業でまとめを話す太田さん。

調べた内容、自分のできることを代表者4人が発表。自分とは違う意見を知ることが理解できる。さらにSDGsへの理解を深めるために、再度JICAの田代さんが講話を行う。最後にこれまでの授業で考えたことやこれから自分が取り組む行動について振り返り、授業を終了した。



代表として発表する生徒。

宮崎市立清武中学校 教諭
太田京子(おおたきょうこ)さん(左)
JICA宮崎デスク
田代芽衣(たしろめい)さん(右)

授業を行うにあたって、二人は何度も相談を重ねた。「出前講座などを行い、SDGsや国際協力を効果的に伝えるJICAの知見はとても勉強になりました」と太田さんは話す。「コロナ禍で外に出る仕事が少ないことが幸いしてじっくりと取り組みました。自分自身にとっても貴重な経験になりました」と、田代さんにとっても学びの多い授業になった。



生徒たちが作成したレポート。どれも力作ぞろいだ。



どんな国も解決すべき
課題があります

オリエンテーションでSDGsについて説明する田代さん。

授業にJICAが協力

宮崎市立清武中学校では、2020年度の3年生の総合的な学習の時間に、SDGsをテーマにした10時間(6日間)の授業を行った。SDGsという大きな題材を授業でどう扱えばいいのか――過去の経験が少ない中、準備を進めていた英語科教諭の太田京子さんが重視したのは「日本と世界のつながりを実感し、SDGsをジブンゴトとしてとらえられる」内容にすることだった。「生徒たちの多くは、SDGsという言葉は知っていても、17の目標など具体的なことは知りませんでした。ですからSDGsについて学ぶ下地をつくる時間がとても大事だと思いました」。

そこで太田さんが協力を求めたのが、JICAの出前授業でつながりが生まれたJICA宮崎デスクの田代芽衣さんだった。二人で何度も相談を重ねて授業内容を考えた。「こうした講話は話す側の一

SDGsをジブンゴトとしてとらえた生徒たち

そして、生徒たちはSDGsの目標の一つを選び、それについて調べ、目標達成のために自分ができることを考えてレポートにまとめた。レポートはグループ内で講評し合い、最後に代表の4人が全員の前で発表した。途中の授業にも

方通行になりやすいので、「天ぷらそばの材料のうち外国産は？」とクイズで日本と外国とのつながりを実感させたり、SDGsに関連した動画を見せたりしました」と田代さんは工夫した点を話す。

また、具体的な体験談があると生徒が授業に集中しやすいと考えた太田さんは、2012年にJICAの教師海外研修で訪れたフィリピンでの体験も紹介した。「七夕などの行事や日本の文化を、毎月11日に村の人々に紹介している女の子に出会ったことを話しました。東日本大震災の翌年に、遠く離れていても日本にエールを送っていることに感動したからです。授業後のアンケートに『先生がそんな体験をしていたことを初めて知った』『日本と世界はつながっているんだ』『他国の貧困と日本は無関係ではない』などと書かれていて、生徒たちが理解してくれただけを感じました」と太田さんは話す。

参加して生徒をサポートしてきた太田さんは、「最初はSDGsの基本的な内容もよくわからなかった生徒たちが、とてもよく掘り下げずばらしいレポートをまとめていました」と生徒たちの成長に感動したと話す。太田さんは、ほぼすべての生徒がSDGsをジブンゴトととらえることができたと感じた。「たとえば目標3の『すべての人に健康と福祉を』を選び、聞こえない不安や聴覚障害について調べた生徒は、もともと持っている手話への興味が出発点でした。目標6の『安全な水とトイレを世界中に』を選んだ生徒は、いつも使っている公園のトイレの衛生状況を調べ、ついでに掃除もしたそうです。レポートからはSDGsを自分に関係する問題だととらえ始めたことがわかりました」。

この授業は地元『宮崎日日新聞』で報道され、宮崎市内で行われた国際ミニフェスタでは生徒たちのレポートが展示された。「田代さんが広報活動をしてくださった結果です。反響も大きくて、ほかの学校から『同じような授業に取り組みたい』と問い合わせがありました。また学校内でも多くの先生がSDGsを教えることの意義に共感してくれました」と話す太田さん。この経験を来年度にもつなげていきたいと力強く語った。

*「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。2015年の国連サミットで採択された。